

1. 科目名 (単位数)	経営管理論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3112						
2. 授業担当教員	岡田 広司									
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答など		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>本講義では組織の管理についての解説を行い、経営管理の理論的な部分に関して初歩的な理解を促すことが目的である。そのために、まずは、代表的な経営学説を学ぶことから始める。</p> <p>講義の流れとしては、経営管理の全体を把握するため、経営学の誕生、近代組織における経営管理の登場とその発展について学習する。変革する経営管理について、組織の活性化、モチベーション及び経営のリーダーシップについて学習を進める。</p> <p>また、経営の創始者としてのテイラーや管理原則を展開したファヨールの議論などを紹介する。最終的には人事労務管理論や財務管理論へと議論を展開して、経営管理の全体像を把握できるようにする。</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業はもちろん病院・学校・公共団体などをはじめ家庭・個人にいたるまで経営管理能力が必要とされている。組織の経営管理活動の過去・現在・未来を理解できるようにする。 2. 社会で要求される管理能力の基礎を身に付けると共に、行動案を立案できるようにする。 3. 自分自身のマネジメント、即ちセルフマネジメントを理解し、実践力をつけることを目的とする。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>定期的なアサイメントについては特に課さない。しかし、学習に必要な場合はレポートを課す。また、授業展開の中で特に重要となる授業内容の予備知識を調べてくるように提示する。前回の授業とのつながりを解説しながら授業を進めるが、特に重要となる授業内容については、その都度、各自でその要点をまとめてくるよう提示する。</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男著『経営管理 [新版]』有斐閣アルマ、2014。</p> <p>【参考書】 高松朋史・具承桓著『経営管理』新世社、2019。 岡田広司著『現代マネジメント概論 現代経営学基礎講座 I』あるむ、2011。</p>									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の経営を実践と理論の両面から平易な資料を用意して授業を進めたため、組織経営の基本的仕組は理解できたか。 2. 組織の管理能力の基礎的な考え方を身に付けることで、グローバルな視点で経営管理を考えるような力が付いたか。 3. 企業の経営管理の理解だけでなく、病院や公共施設などの経営管理の違いを理解できるようになったか。 <p>○評定の方法 授業への積極的参加度、課題レポート、期末試験等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>2 課題レポート</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> </table>				1 授業への積極的参加	総合点の 30%	2 課題レポート	総合点の 30%	3 期末試験	総合点の 40%
1 授業への積極的参加	総合点の 30%									
2 課題レポート	総合点の 30%									
3 期末試験	総合点の 40%									
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. (ZOOM 授業の場合) 授業中はビデオおよびカメラを ON にすること。 特段の理由なくビデオを ON にせず、かつ教員の呼びかけにマイク等で反応しない学生は欠席扱いとする。 (対面授業の場合) 授業中にスマホ操作、私語、居眠りの多い者は教壇最前列に座らせる等、担当教員の厳重な指導下におく。 2. あらゆる人は何らかの組織に所属している。組織の活動は経営管理の知識が必要である。また、経営管理の学習は、未来の自分の人生の目標を定めその生き方を方向付ける試みができ、セルフマネジメント手法を学ぶことにもつながる。 3. 担当教員は新事業のリーダーとして、長年企業で多くの新製品の開発とその事業化のための経営管理を進めた。その研究と実務経験を生かして、医療・福祉・介護などの組織の経営管理へ活用するための研究・学習を皆さんと共に討議を重ねながら追究していく。 									
13. オフィスアワー	授業の際に指示をする。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 経営管理の概念	事前学習	テキストの著者の考え方を知らず、「はしがき」(pp.1~6)の内容を読みまとめる。							
		事後学習	経営管理の概要を聴いたうえで、経営体の経営管理について自分の考えをまとめて提出する。							
第 2 回	経営の誕生、資本主義経済の発展と経営管理の形成人と社会システム、組織的な経済活動・公共的な経済活動	事前学習	テキスト序章 (pp.6~12)を読んでまとめる。また、関心のある企業について調べる。							
		事後学習	テキストにある日本の会社と、各自が関心のある会社を比較し、その違いなどをまとめる。							
第 3 回	管理の生成と発展、専門経営管理と組織能力 近代的組織の登場、所有と支配の分離	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.16~41)をまとめる。							
		事後学習	専門経営者の台頭、経営管理論の始祖ファヨールを中心に管理の必要性をまとめる。							
第 4 回	経営管理の発展 生産性と創造性の探究として経営管理論	事前学習	テキスト第 2 章前半 (pp.42~47)を熟読し、テイラーの科学的管理法をまとめる。							
		事後学習	経営管路の発展、経営管理論の系統図を理解しまとめ、現代企業との比較をする。							

第5回	経営管理の諸理論 資本主義と企業組織の発展、経営管理の生成	事前学習	テキスト第2章後半(pp.48~62)を熟読し、まとめ、諸理論の流れをつかんでおく。
		事後学習	科学的管理法、サイモンの意思決定論を中心に内容をまとめる。
第6回	経営管理の諸理論 科学的管理法と大量生産方式、コンティンジェンシー理論	事前学習	人間関係論誕生につながるホーソン実験をよく理解し、その内容をまとめる。
		事後学習	人の管理から組織の理論の流れをまとめる。
第7回	組織のデザイン、環境適応へ向けての構造設計 機能別組織管理と管理諸原則、ファヨールの貢献	事前学習	テキスト第3章 pp.64~71を熟読しまとめる。
		事後学習	経営管理におけるファヨールの貢献、機能別組織のデザインについてまとめる。
第8回	事業別組織の経営管理、部門管理の標準化 事業部制組織の設計理念およびメリットとデメリット	事前学習	テキスト第3章 pp.71~76を熟読しまとめる。
		事後学習	新聞や雑誌などから事業部制をもつ企業を1社選択し、学習内容と比較検討しまとめる。
第9回	日本型組織デザイン 組織のヨコの連携、競争優位の確立に向けて	事前学習	テキスト第3章 pp.76~89を熟読するとともに、関心のある企業の組織図を記録しておく。
		事後学習	日本型組織の新しい展開という視点でまとめ、理解を深める。
第10回	経営戦略、組織経営の指針 戦略と組織の適合性、企業ドメインの策定	事前学習	テキスト第4章 pp.90~96を熟読しまとめる。
		事後学習	戦略的思考、成長ベクトル、SWOT分析をまとめ、理解を深めておく。
第11回	競争戦略、戦略的事業単位の経営管理 ポーターの競争戦略理論	事前学習	テキスト第4章 pp.96~112を熟読しまとめる。
		事後学習	企業の競争戦略事例を取り上げ、PPM分析に適応・考察してまとめ、理解を深める。
第12回	組織資源の管理 伝統的資源管理、情報資源の蓄積と利用、組織風土の適性	事前学習	テキスト第5章 pp.115~136を読み、企業の伝統的な経営資源と新潮流について把握する。
		事後学習	経営資源管理から日本型社内ネットワークへの発展と組織風土の関係を中心にまとめる。
第13回	組織間関係の管理、戦略的提携に向けての基礎 日本における組織間関係、戦略的提携のロジック	事前学習	テキスト第6章 pp.138~160を読み、これまでの組織間関係の事例をまとめる。
		事後学習	なぜ企業間連携をするのか、戦略的提携ロジックを中心にまとめ、理解を深める。
第14回	変革の経営管理、組織を支える人的要因 人間関係論と行動科学、組織開発と組織活性化	事前学習	テキスト第7章 pp.164~184を読み、経営管理と人的資源の関係を理解する。
		事後学習	新しい時代に相応しい変革の経営管理と組織の活性化を中心にまとめる。
第15回	授業のまとめ	事前学習	経営の誕生から始まったこの学習の内容を再確認し、疑問点や問題点をまとめる。
		事後学習	この学習で理解した経営管理のあり方をまとめると共に、関心ある企業などを取り上げて理論と実践との差異などを比較しまとめる。
期末試験			